

2 10大費目指数の動き

各費目の動きを前年比で見ると、教育は授業料等、補習教育などにより4.3%の上昇、食料は果物、菓子類などにより3.3%の上昇、家具・家事用品は寝具類、家事雑貨などにより3.0%の上昇、被服及び履物は衣料、他の被服類などにより2.9%の上昇、保健医療は医薬品・健康保持用摂取品、保健医療用具・器具などにより2.1%の上昇、諸雑費は理美容用品、身の回り用品などにより1.6%の上昇、教養娯楽は書籍・他の印刷物、教養娯楽サービスなどにより1.1%の上昇、住居は設備修繕・維持などにより0.2%の上昇となった。

一方、光熱・水道は電気代、他の光熱などにより0.8%の下落、交通・通信は自動車等関係費などにより3.2%の下落となった。

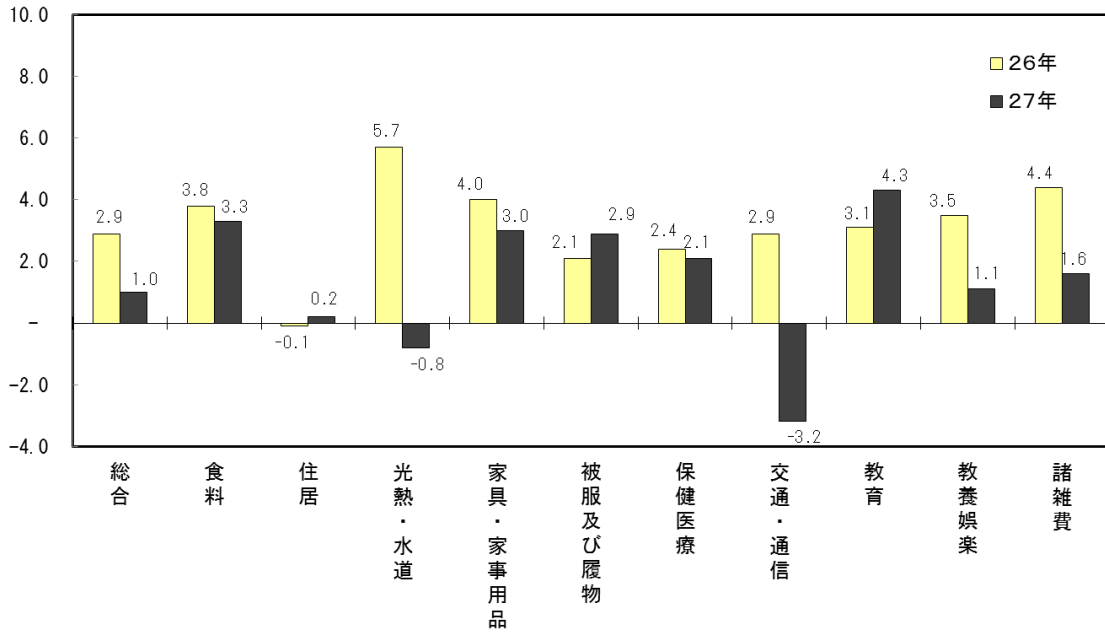
10大費目指数	前年比(%)		寄与度	
	26年	27年	26年	27年
総合	2.9	1.0		
食料	3.8	3.3	0.98	0.84
住居	-0.1	0.2	-0.02	0.04
光熱・水道	5.7	-0.8	0.41	-0.06
家具・家事用品	4.0	3.0	0.16	0.12
被服及び履物	2.1	2.9	0.09	0.12
保健医療	2.4	2.1	0.08	0.07
交通・通信	2.9	-3.2	0.43	-0.48
教育	3.1	4.3	0.08	0.11
教養娯楽	3.5	1.1	0.40	0.12
諸雑費	4.4	1.6	0.29	0.11

※寄与度について

寄与度とは、ある品目又は類の指数の変動が、総合指数の変化率にどの程度寄与したかを示したものであり、計算式は次のとおりである。

$$\text{寄与度} = \frac{(\text{当期の指数} - \text{前期の指数}) \times \frac{\text{当該項目のウエイト}}{\text{総合のウエイト}}}{\text{前期の総合指数}} \times 100$$

費目別前年比



費目別寄与度

